

ご挨拶

本学会の英語訳は **Japanese Association of Psychology for Human Services** と称しています。福祉の英語訳として最も頻繁に用いられる **welfare** ではなく、広くすべての人々の福祉にかかわるサービスを重視したヒューマンサービスという用語をとり入れています。そこには、保護を必要とする人々の福祉を重視した **welfare** とともに、すべての人々の自己実現を図るための福祉を重視した **well-being** が含まれています。

今回の大会のテーマは、「少子・高齢社会の福祉を拓く」です。本学会が創設された6年後の2008年に開かれた第6回大会のテーマが「ウェルビーイングと福祉心理学」でありました。本大会は丁度その6年後にあたります。少子・高齢社会が著しくすすむわが国の福祉の動向は、高齢化、少子化の流れをかなり **welfare** の視点からとらえすぎている傾向が見られます。心理学の分野においてもそこに重点を置き、**welfare** に貢献するという視座が中心となっているように思います。しかし、私たちの社会が必然的に少子、高齢化が進んでいることをむしろあるがままに受け止め、真に人間を尊ぶ社会のあり方を探り、高齢社会の実態に心理学的に深く迫るならば、平均余命のとらえ方を一人ひとりの人間のよりよき自己実現の豊かさと結びつけることができ、少子社会の実態に深く迫るならば、真に社会の子育てパートナーシップを実現するための心理学的アプローチを深める契機とすることができるでしょう。

今大会を、このように人間を尊ぶ社会の構築に貢献する心理学のあり方を探る機会にすることができればと思っております。このため、心理学に限らず、幅広い学際的分野の方々にも参加していただく基調講演やシンポジウムを企画しております。また福祉心理士の活動をより広げるためのプログラムも用意いたしております。

本大会が、広く福祉に関わる方々の心理学的アプローチに貢献できる機会となることを願い、多くの皆様方のご参加をお待ちいたしております。

2014年12月

日本福祉心理学会第12回大会準備委員長
網野 武博